



グループ プラン詳細レポート

萌え観光で地域産業を活性化 諏訪の力を生かしたナイスおみやげをプロデュースせよ



B4グループの会社名は、創造はそれぞれの意見からという意味を込めて、クリエイティブ & コンサルタントを略した「C&C」と名付けた。“既存の製品に新しい方向性を”というコンセプトのもと活動を行った。

Bグループに与えられたテーマは「萌え観光で地域産業を活性化、諏訪の力を生かしたナイスお土産をプロデュースせよ」である。このテーマに対して、B4グループは自分たちで全く新しいお土産を作ることができるのか話し合った。各々のメンバーが意見を出した結果、完全にオリジナルの商品を作ることは難しいので、もともとあるモノを参考にしたお土産を作ることを目標として活動をした。

まず、お土産には何がよいのかを考えた。飾るための置物や、キーホルダーといった形が残るものか、それとも、お菓子やその土地特有の食べ物がよいのか、調べてみると、お菓子を買う人が95%以上というデータを発見した。お土産のお菓子を購入するポイントは、「おいしい」「その土地らしさ」「価格が手ごろ」の三つが大きな要素となっている。その土地ならではのものは、お菓子であるとの意見も発見した。話し合いと調査の結果、お菓子のお土産を作ることに決定した。

諏訪を代表するモノを参考にしてお土産を作るので、諏訪には何があるのか調査をしたところ、諏訪湖豆という商品の存在を知った。B4グループはこの諏訪湖豆をアレンジしたお土産である「花火豆」を提案する。

諏訪湖豆を参考にした理由は伝統のあるお菓子であり、諏訪湖豆という名前からして諏訪独自のお土産だと思い、他の食品よりアレンジがしやすいと判断したからである。この、諏訪湖豆は大豆に砂糖をコーティングした食品であり、全国菓子大博覧会で名誉大賞を受賞している。製造元は中央食品工業で、原材料は大豆と砂糖とでんぷんのみで作られているシンプルな食品である。

初期の花火豆の案が実現可能か実際に中央食品工業に問い合わせたところ、この案にはコストがかかり経営的に困難であり、実現は難しいとの返答を頂いた。初期の案では根拠が薄弱で、あれもこれもできるのかという質問をしてしまい、案も質問内容も不十分だった。これを反省し、案を深め実現できるように活動をした。

ここで、B4グループが提案する「花火豆」とはどのようなものなのかを説明する。まず、花火豆という名前にした理由は、諏訪の名物で特に有名なのが花火大会であり、この花火大会は全国的にも有名である。それにちなんで花火という言葉を含めた名前にし、花火と関連させて大々的にアピールするという意図がある。参考にした商品が諏訪湖豆なので、花火と諏訪湖豆を合わせて、花火豆と名付けた。諏訪湖豆を基本としているが、新たなお土産として大きくアレンジした。変更点は、1. 食品のコーティングを変える、2. パッケージを変える、3. 付加価値を付けることの三点である。

一つ目の変更点であるコーティングについて、諏訪湖豆は砂糖でコーティングされており、白い見た目である。色々な色のチョコレートでコーティングする。大豆とチョコレートという組合せ



概要 諏訪湖豆をアレンジ した花火豆 を提案

諏訪湖豆(中央食品工業)のパッケージに実物の打上げ花火(5号玉)を用い、豆のコーティング材料や色を変更して新しい価値を創造する

は斬新であると判断し、コーティングにすることを決定した。

二つ目に、B4グループが特に力を入れたのがパッケージを変えることである。食品自体は大事であるが、お土産としてインパクトのある見た目は重要なのではと考えた。まず、入れ物として花火玉を使用する。本物の花火玉を想定しているが、後で説明する概算で花火玉にお金がかかるので、花火玉を真似た入れ物を考えている。表紙は諏訪の花火大会の写真を使用し花火を大々的にアピールする。商品名である花火豆と表示し、それを諏訪姫という株式会社 PMOA(ピーエムオフィスエー)が諏訪を活性化させるために考えたキャラクターが紹介している表紙にする。

最後の変更点である付加価値について、花火玉を買うことで諏訪をより知ってもらえる付加価値を付ける。諏訪は温泉街としても有名であり、諏訪をより楽しんでもらえるように、諏訪の各温泉施設で使用できる割引券を付ける。また、買ってすぐに使用しなくても、再び諏訪に来るきっかけになるように意図したものである。

最後に、この花火豆にはどれ程のお金がかかるのかを概算をした。中身の食品を計算をしたところ、一つの商品にかかる費用は、大豆は153円、チョコレートは66円になる。次に、パッケージに5号の花火玉を使用すると500円、表紙に使用するシールは84円となり、全てを合計すると803円となる。900円に設定し、消費税が45円かかるので設定価格は945円となる。単純に考えると利益は52円となる。これはあくまでも概算であり、実際の価格は変動すると思われる。先ほども述べたが、花火玉に500円かかるので、花火玉を真似た入れ物を作成すればもっと安くなり利益が上がるのではと考えている。

実現させるにはより具体的なものにすることが必要だが、B4グループはこの花火豆を提案する。